

同人作品

海の細道 日本海 秋山義仁

小泊のタケさん見たよバス停でよそいきよ金木の整形行くど
白の上白を重ねて雪ごもり世のうさふんわり包みこむ

鳥来て白をけとばし餌探し雪ん中には白しかないと

湿原の弥陀ヶ原花が埋め山頂の雪坂登れず下山

島の奥朽ち残りたる社には茅の穂や葉矢に囲まれ蛇棲まう

周平の海坂藩は架空でも描く鶴岡全てが事実

弥彦山^{ヤマ}を背に立つ古社は雪埋まり参れず侘びてお茶出す老婆

良寛は名主の息子貧選び孤選ぶ一茶とは違う

バス停のベンチの下の白猫が座禅冥想永平寺

敦賀来て見る夜半の月揺れもせず風流風流北前船の風呂

猿から人から何？

石邊綾子

凍り付くような三日月それはまだかすかに残るわたしの正気

水と火と宇宙の闇を潜り抜けぶふあつとひとつ星のまたたき

今日からはベッドの脇にポータブル電源を置くアルバと名付け

腹の底からそうじゃない言う声が思わず漏れて日曜討論

君たちがどうしたいのかT字路の先にうつすら猿の惑星

人間のふりをした猿ほんとうのヒトになるまでがんばっている

ヒトのふりをした人間がもやもやと紛いの国の軍隊になる

どこまでも平行線を追いかけるだけの無駄足そうと知りつつ

オリーブの花咲くころに逢いましょう　ふみしたためる夢のあとさき
梅雨空をばらりとめくり真つ青の夏色にする君のゆびさき

暑さに負けず　井上省吾

畑仕事線香たいて虫除し夜明けと共に暑さ対策
障害連作さけて物選り過去の作物調べて決める
雨多く露地栽培の難しさ試行錯誤で野菜育てる
大変だやればやる程手がかかる祈りをこめて野菜育てる
元肥して種まき間引追肥やり土寄をして収穫をまつ
マスクして帽子にタオル腕カバー長靴はいて虫除をして
汗をかき疲れ忘れて草を取るこのひとときに心をこめて
ひと仕事おえて疲れがどつとでる身体きついが心は軽い

ドライブ 熊谷恒樹

右に阿蘇左に久住の草原を一気に駆抜け大観峰へ

肥後豊後あてずっぽうのドライブで帰り着いたる筑後の我が家

枯れて夏 甲村雅俊

黒カビにやられ多くの葉が枯れてアオキ痛々しき姿なり

檜山へ前世のわれは揚揚と父を背負ひて捨てにゆきたり

梅雨明けの早さ記録を更新し長くて暑い夏になりさう

凶弾に国士斃れるあまたなるアベガーの願ひ天に届きて

千ページの岡野弘彦全歌集どこから読むかしばしためらひ

あらがねの土壌づくりが失敗かヤツデの一つ枯らしてしまふ

長生きをするか分からぬ我なれど介護されないやうに老いたし

クーラーのなくて暮らせるわが部屋の床に伸びたる猫を撫でやる

これからの歌（「歌壇」七月号より）

量産のただ何となく雅なる歌よりましかアヴァンギャルドは
わからない歌をつくればいいといふ哀れ通用せざる虚無主義
一周忌勤めたるのちぼんやりとわがこれからの歌を思ひて
いささかの開放感に部屋にあつた青木を外に出したる夜は
日めくりをわが一日の始まりの朝の儀式にめくり取るなり
キジ白の猫と暮らして二か月はわが手と顔に噛み傷絶えず
豪姫と立派な名まへ持つ猫を噛みつき姫と秘かに呼べる

江古田浪漫 浜谷独人

としまえん都営十二号いまはない暗い踊り場きみの横顔

どこにもない森の奥にある樹の中に隠したようなあの頃の日だ
無謀さをムーンショットと呼ぶのなら君という名の月を撃ちたい
くたびれたソールの裏のガムのような昨日のかわりに選んだ今日だ

カーネーション 氷室敬子

一鉢に花とつぼみを無数につけたカーネーション母に元氣にと
卓上にきれいに活けたカーネーション家族の平和守れと祈る
無添加の大根いただきうつすらと昆布入りのつゆで美味しく煮ています

燦燦と 本田洋子

この五月東北へ旅した友の居て北国の春に感動せりと
真っ赤っ赤桜の散りていつの間に垣根に燃ゆる山つつじかな

燦燦と朝日を浴びて大輪のバラピンクなりやわらかき色

吾が前にセグロセキレイ舞い降りぬ川辺に吾を導くように

雨上がりドアを開ければムンムンと木の芽の匂い飛び込んでくる

中学生

吾が家は中学校の前に有り子らの歓声朝から夕まで

生徒たち五台のバスに分乗し修学旅行か日光辺り

夕刻にわいわい言って子ら帰る淋しくなりぬ吾が胸の内

朝練の子らは七時に登校しボール蹴り出す元気な部活

日曜日ちよつと公園に出て見たら片隅に早や紫陽花咲けり

ジャケットがダブダブ気味の新生 真白き襟のなんとまばゆし

目標 正木りえ

目標と言う名のノルマ達成し帰路に着く旅すこし安堵す

カサブランカ 若杉ゆき

縁あつて雷雨の中へ聞信寺車走らせ 講話を聴きに

我息子いくつになれば一人立ちこの手離るる心配やめる

アルコールで心身ともにボロボロにそうなつてもね止められないの

母子とは切つても切れぬ深い絆編み出されてく死んでも切れぬ

頑張ります僕もきちんと咲けるよう綺麗に咲いたカサブランカ見て

君は今生きてゆくことに途方に暮れ行き先見えぬ暗やみの中

さりげなく未来のきみに母として愛を一輪咲かせてあげたい